



2014年11月号

最近、よく遊びに来る娘（小2）の友達は、いつも高価そうな洋菓子を持参。毎回、お礼の電話を入れるのも気が重くなってきました。



論理アタマが育つポイント

「おやつを持たせる」という親の気遣いが、子どもたちの時間を束縛しないように、母親同士が理解すること。



会話部分 お菓子のお礼とともに、これからのことを電話で話します。

*まず、子どもたちの仲がいいことについて喜びと感謝を伝えます。



今日は、紗綾ちゃんに遊びに来てもらって、愛理も大喜びでした。ありがとうございました。ふたりとも、本当に仲がよくて、見ている私まで幸せな気分になってしまいました

*次に、お菓子のことを切り出します。もちろん、まずはお礼を。そして、少し負担に思っていることをさりげなく知らせます。



それから、おいしい焼き菓子を、いつもありがとうございます。おやつのお時間におしくいただきました。なんだか、いつも申し訳なくて……

*続けて、「お菓子を持参してもらわなくてもかまわない」「そのほうが遊ばせやすい」ということを率直に。



愛理も私も、紗綾ちゃんに来てもらうだけでうれしいので、これからはおやつのご持参は本当に気にしないでください。そのほうが、うちも誘いやすいです。これから、うちの子も遊びに何うかもしれませんので……、おたがいさま、ということにしませんか？

*さらに子どもたちの遊びの様子も伝えて、子どもたちは一緒に遊ぶことに夢中で、親としてもそれが一番大切だと思っていることを理解してもらいましょう。

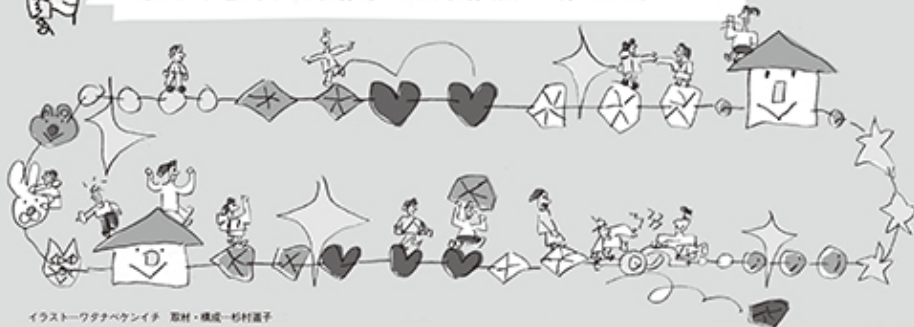


今日は、ふたりともピースに夢中で、作品のでき上がりも素晴らしいです。子どもだけで「次はこうしよう」「ああしよう」って、盛り上がってました。また遊ぶ約束もしたみたいですよ。私も楽しいので、紗綾ちゃん、またぜひ来てくださいね

*最後に今後のおやつ持参について、さりげなくもう一度伝えましょう。



それでは、近いうちにどうぞ。手ぶらでどうぞ。楽しみに待っています！



今月のお話 伝える技術 9

最近、よく遊びに来る娘（小2）の友達は、いつも高価そうな洋菓子を持参。毎回、お礼の電話を入れるのも気が重くなってきました。

言い訳を考えるよりも 率直に思いを伝えるほうが吉



「家風」という言葉があります。すこし古めかしい響きではありませんが、現代においても、それぞれの家族にそれぞれの価値観があり習慣があるので、それは家庭を築いていくために必要なことと見做す、尊重されるべきことです。が、ときおり、ほかの家庭との関係のなかで、あらためてわが家の方針を見つめ直すことが出てくることもあります。

今回の問題のような、子どもの友達とその家庭とのつきあひも、そうしたケースのひとつです。まず、状況を整理して、問題の在りかを論理的に考えてみましょう。

母同士の気配りが過ぎて 子どもが置き去りに？

私だったら、おいしいお菓子をもらえたら「ラッキー」と喜んで、毎回ありがたく頂くとしますが、こまやかな気遣いをしてしまう女性としては、それはできないでしょう。「お礼を言わなくては」「うちの子が遊びに行くときには同じようなものを持たせなくては」と、「お返し」をいつも考えてしまいます。

また、先方のお母さんは、おそらく「いつも遊びに行かせてもらって、ありがたう。これからは仲よくしてほしい」という感謝の思いで、ちょっと奮発したおやつを持たせているのでしょう。その思いが強いあまりに、他者意識が薄くなり「相手が負担に思うのでは？」という視点に行き着いていないのかもしれない。

が、「負担だから、気づいてよ」とはなかなか言えないので、なんとか相手を傷つけないようにして、わかってもらうには……、ということに悩むのが深くなるのだと思います。しかし、です。子どもたちは仲よくなっているのに、親同士は仲よくなくなっている。親同士はなんと他人行儀なことでしょうか。気配りが行きすぎて、本来大事にすべきである「子どもたちの友情」が忘れられていくように思います。

もちろん、子どもが仲よくしている

るからといって、お母さんも友達にならなくてはいけないわけではありせん。ただ、何よりも優先されるべきなのは、子どもたちが自由におたがいの家を行き来し、一緒に時間を過ごすこと。大人のような手土産を持参する、という気配りまでは不要だとも思います。

一番適切な理由は「子どもたちの自由な遊び」

そう考えれば、おやつをお断りするたのもっとも的確な理由は、「子どもたちが気軽に遊ぶために、高価なおやつをやりとりは控えたほうがいい」ということ。

取りつくりろったような言い訳よりも、「子どものことを中心に考えた結果の話であれば、先方のお母さんもきっと素直に受け入れられるはず。いつも仲よく遊んでくれることへの感謝とともに、率直に話してみるのが良策です。」

論理アタマを育てよう！
ママのための
日本語トレーニング vol.15



仲のよい友達ができるのは、親としてもうれしいのですが、ときには相手方のお母さんと遊ばせ方やつきあひ方について考えが合わないことも。親として、わかりあうためにはどうしたらいいのでしょうか？

出口 汪 てくち・ひろし
大学院生時代に予備校の教壇に立ち、独自の論理的解法を駆使した講義でたちまち人気を博し、現代文のトップ講師として30年以上にわたり、教え続ける。2002年に自らの経験の集大成として「論理エンジン」を開発。執筆した受験参考書の売り上げは累計600万部を超える。小学生向けの「出口汪の日本語論理トレーニング」シリーズ（小学館）が好評発売中。